

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和6年度】

年 月 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 102-0083

所在地 東京都千代田区麹町1丁目5番地4-712

評価機関名 株式会社 ケアシステムズ

認証評価機関番号 機構 06 — 167
電話番号 03-3511-5035
代表者氏名 和田 俊 一

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	高橋 正一	経営	H2201041
	②	和田 輝美	福祉	H1001021
	③	北原 富美子	福祉	H1501011
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	学童クラブ			
評価対象事業所名称	第四小学校学童クラブ			
事業所連絡先	〒	206-0811		
	所在地	東京都稲城市押立1250番地		
	Tel	042-377-9076		
事業所代表者氏名	稲城市長 高 橋 勝 浩			
契約日	2024 年 8 月 8 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2024 年 10 月 18 日			
利用者調査結果報告日	2025 年 1 月 21 日			
自己評価の調査票配付日	2024 年 9 月 20 日			
自己評価結果報告日	2025 年 1 月 21 日			
訪問調査日	2025 年 1 月 28 日			
評価合議日	2025 年 1 月 28 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査は、調査実施日現在、当事業所を利用している全ての利用者を対象にアンケートを実施した。事業所と評価機関の連名による依頼状にアンケート用紙と返信用封筒を同封して対象者に配付、回答は評価機関に直接送付してもらった。 事業評価に際しては、事前説明を行うとともに、職員からも個々の標準項目にチェックを入れた分析シートを回収し参考とした。 第三者性の確保については、当評価機関、担当評価者と事業者との間に事実上、人事上の関係は一切存在しないことを確認し、中立公正な評価に努めた。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、
● 機構が定める部分を公表することに同意します。
○ 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
○ 別添の理由書により、公表には同意しません。

年 月 日

事業者代表者氏名 稲城市長 高 橋 勝 浩 印

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）
	事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 1) 適切な遊びと生活の場を提供をし、健全な育成を図る。 2) 一人ひとりの気持ちを理解し、様々な場面で褒めたり認めることで、子どもの自己肯定感を高める。 3) 自分の考えや気持ちを相手に伝える事ができるよう支援し、学童クラブが安心して過ごせる場となるよう努める。 4) 基本的生活習慣の自立に向けて援助、支援する。 5) 異年齢での生活、遊び、グループ活動、行事などを通して、ルールを守る事の大切さや相手に対する 思いやりの心を育てる。
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）
	(1)職員に求めている人材像や役割 ・地方公務員として全体の奉仕者として職務を遂行する。 ・学童クラブの育成で子どもの気持ちに寄り添い、見守り、その子にあった言葉かけができる。 ・職員同士、連携しながら報連相を大事に子ども、保護者支援も行う。
	(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感) ・学童クラブ職員は保護者が就労等で不在の児童に対して放課後の安全・安心な居場所づくりを行う。 ・職員は児童に対して思いやり・温かみをもって接し、児童の気持ちに寄り添う育成を心がける。 ・職員同士がお互いを認め、向上心を持って育成にあたる。

調査対象

調査日現在、当事業所の利用登録者総数である40名を調査対象とした。回答者の年齢構成は、1年生9名、2年生10名であった。

調査方法

アンケートは、QRコードを付した依頼文を配付し、評価機関に直接電送してもらう方法と、アンケート用紙を事業所にて配付してもらい回答は返信用封筒にて評価機関に直接送付してもらう方法の2種類で実施した。

利用者総数

40

共通評価項目による調査対象者数

アンケート	聞き取り	計
40	0	40
19	0	19
47.5	0.0	47.5

共通評価項目による調査の有効回答者数

利用者総数に対する回答者割合(%)

利用者調査全体のコメント

回答者の属性は、「利用者本人」が21.1%、「本人と家族」が73.6%、「家族が推察」が5.3%であった。総合的な感想に関する調査の結果は、対象者の89.4%が「よい」または「ややよい」と回答し、「どちらともいえない」が5.3%、「ややよくない」が5.3%であり、大変高い満足度が得られている。項目別では、＜生活について＞に関する5設問は4設問において、大変高い満足度であった。特に「おやつ時間の楽しさ」では、全員が「はい」と回答する大変高い満足度が得られている。＜安心・快適性＞に関する4設問は3設問において、大変高い満足度であった。特に「職員の接遇・態度」では、全員が「はい」と回答する大変高い満足度が得られている。＜あなたを大切にしてくれるか＞に関する2設問は「気持ちを大切にしてくれるか」において、89.4%の大変高い満足度が得られている。＜嫌なことやしてほしいこと＞では、「困ったり、してほしいこと」は、大変高い満足度が得られているが、「職員以外へ相談の案内」については、さらに高い満足度が望まれる結果であった。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 学童クラブでの活動は楽しく、興味の持てるものとなっているか	16	2	0	1
「はい」が84.2%、「どちらともいえない」が10.5%、「無回答・非該当」が5.3%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「工作が楽しい」、「本を読むのが楽しい」、「放課後等デイサービスも利用していますが、放課後等デイサービスの方が好きです」という声が聞かれた。				
2. 職員は話し相手や、相談相手になってくれるか	17	1	0	1
「はい」が89.4%、「どちらともいえない」が5.3%、「無回答・非該当」が5.3%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「本人が具体的な言語化をあまりしないのでわかりません」という声が聞かれた。				
3. おやつ時間が楽しいひとときになっているか	19	0	0	0
全員が「はい」と回答しており、大変高い満足度であった。自由意見では、「一番楽しいです」という声が聞かれた。				

4. 学童クラブでの約束ごと、活動内容について話し合う機会を設け、職員は意見を尊重してくれているか	14	3	0	2
「はい」が73. 7%、「どちらともいえない」が15. 8%、「無回答・非該当」が10. 5%であり、高い満足度であった。自由意見では、「手を挙げたら意見を聞いてくれます」という声が聞かれた。				
5. 職員から学童クラブの約束ごとの説明を受けているか	17	1	0	1
「はい」が89. 4%、「どちらともいえない」が5. 3%、「無回答・非該当」が5. 3%であり、大変高い満足度であった。自由意見は特になかった。				
6. 学童クラブ内の清掃、整理整頓は行き届いているか	18	1	0	0
「はい」が94. 7%、「どちらともいえない」が5. 3%であり、大変高い満足度であった。自由意見は特になかった。				
7. 職員の接遇・態度は適切か	19	0	0	0
全員が「はい」と回答しており、大変高い満足度であった。自由意見は特になかった。				
8. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	17	1	1	0
「はい」が89. 4%、「どちらともいえない」が5. 3%、「いいえ」が5. 3%であり、大変高い満足度であった。自由意見は特になかった。				
9. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	14	0	1	4
「はい」が73. 7%、「いいえ」が5. 3%、「無回答・非該当」が21. 0%であり、高い満足度であった。自由意見では、「ヒーロー」、「ケンカやいじめはない」という声が聞かれた。				
10. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	17	0	0	2
「はい」が89. 4%、「無回答・非該当」が10. 6%であり、大変高い満足度であった。自由意見は特になかった。				

11. 子どものプライバシーは守られているか	13	1	0	5
「はい」が68.4%、「どちらともいえない」が5.3%、「無回答・非該当」が26.3%であった。自由意見では、「今まで内緒にしたことがない」という声が聞かれた。				
12. 子どもの不満や要望は対応されているか	16	0	0	3
「はい」が84.2%、「無回答・非該当」が15.8%であり、大変高い満足度であった。自由意見は特になかった。				
13. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	4	2	4	9
「はい」が21.0%、「どちらともいえない」が10.5%、「いいえ」が21.0%、「無回答・非該当」が47.5%であった。自由意見では、「内容が難しいのでまだわかりません」という声が聞かれた。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目		
	カテゴリ1		
1	リーダーシップと意思決定		
	サブカテゴリ1(1-1)		
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	☐ 非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	☐ 非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している		評点(〇〇〇)
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	☐ 非該当
	カテゴリ1の講評		
	事業所の指導目標を明示し、子ども・保護者、職員に周知している 年間指導計画の指導目標を明確に定めている。指導目標は「自己肯定感の向上」「安心できる環境づくり」「基本的生活習慣の自立支援」「安全管理」「異年齢交流を通じたルールや思いやりの育成」であり、育成室内への掲示や職員・保護者への配付を通じて周知を促して。学童クラブミーティングでは指導目標に基づいた事例検討を行い、職員の理解を深めている。保護者には、入所時の説明や保護者会、面談などを行い、しおりを配付し、ホームページに掲載し周知している。今後は、保護者に対して指導計画や目標の説明をより充実することも望まれる。 年間指導計画達成のため各階層に沿った権限と役割を明確にし、職員に周知している 市の組織規則や事務決済規程により、児童青少年課の役割や課長・係長の責任が明記され、リーダーシップの基盤が整備されている。第1種・第2種会計年度職員の役割も明確にし、必要に応じた助言や保護者対応を行っている。学童クラブ部会を年3回、学童クラブミーティングを月1回実施し、日々の終礼や個別支援記録を活用して職員間で情報共有を図っている。職員のグループチャットも活用し、通達事項の伝達が随時行われる体制がある。一方で、役割分担表などの書面で現場職員の役割分担の明確化をすることを期待したい。 会議などを通じて現場の意思を汲みとり、子ども・保護者へも丁寧に周知を図っている 重要な案件の検討・決定は、「学童クラブ指導事務手引き」に基づき、第1種会計年度職員から担当係長へ相談・報告し、判断する仕組みである。また、学童クラブ部会や児童青少年課の課長・係長の判断によっても意思決定をしている。決定内容は、ミーティングや終礼、申し送りを通じて職員に周知され、必要に応じてグループチャットも活用されている。子ども・保護者には、学童クラブだよりやしおり、施設内掲示などで情報提供し、必要に応じて口頭説明や連絡帳を活用している。		

カテゴリー2		
2	事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行	
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	☐ 非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	☐ 非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	☐ 非該当
カテゴリー2の講評		
子ども・保護者、職員や取り巻く環境について情報収集し、課題抽出をしている 子どもや保護者の意向把握のために、意見箱の設置やお迎え時の対話、連絡帳、保護者会、面談など多様な手段を活用している。また、職員と担当係長の間では適切なコミュニケーションが取れており、必要に応じていつでも相談できる体制である。地域の福祉動向についても、課長が要保護児童対策地域協議会、担当係長が地域教育懇談会に出席し、情報を収集している。市の福祉施策については、メールなどを通じて確認し、適宜共有している。今後の職員の意向把握については、意向調査や面談を仕組み化することで、より組織的な意見収集が期待される。 中・長期計画から課題を抽出し年間指導計画の策定をしている 中・長期計画については、市子ども・子育て支援計画および市総合計画を基盤とし、事業所の方針が市の計画と整合するように策定されている。単年度計画としては、指導目標をもとに年間指導計画を立て、学期ごとの遊び・生活・集団指導の目標を設定し、さらに「お店屋さん」「けん玉検定」「昔遊び」などの行事計画や避難訓練を組み込んでいる。年度計画の策定には職員の意見を反映させる仕組みがあり、現場の実情を踏まえた計画立案が行われている。今後は、民営化を計画しており、その移行に向けた計画の具体化が求められる。 年間指導計画の進捗確認や見直しなどの体制を整備している 年間指導計画の推進にあたっては、「学童クラブ指導事務手引き」を基に、指導指針や指導計画、学校・保護者との連携などの項目に沿って具体的な取り組みが行われている。進捗状況の把握については、第1種会計年度職員が中心となり、月1回のミーティングで計画の進捗を確認し、必要に応じて見直しを行う体制である。また、指導事務手引きは常時閲覧可能で、職員が計画を適切に実行できる支えとなっている。計画推進の達成度の測定指標は、さらなる具体化が期待されるものの、柔軟な職員体制により、着実な計画実行に取り組んでいる。		

3 経営における社会的責任		
サブカテゴリー1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	☐ 非該当
サブカテゴリー2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	☐ 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	☐ 非該当
サブカテゴリー3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	☐ 非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	☐ 非該当

	カテゴリー3の講評
	守るべきルールを明確にして職員に周知している 職員に対する法・規範・倫理の周知・遵守の取り組みとして、公務員倫理研修を実施し、情報管理、SNSの利用、金銭管理などについても幅広くカバーし周知を図っている。また、年に1回の個人情報保護法および情報セキュリティ研修を受講し、受講アンケートで確認を行っている。さらに、OJT研修、接遇研修、虐待防止研修などを研修計画に盛り込み、職員の倫理観の向上を図っている。継続的な意識向上の機会確保のため月1回のミーティングでも倫理などについての周知をしている。今後も外部研修の活用を含め、さらなる理解促進が期待される。 子ども・保護者の相談・苦情・要望を聞き取り、権利擁護に組織的に対応している 子ども・保護者の意向聴取と対応については、学童クラブのしおりに「問い合わせ・ご相談」を記載し、児童青少年課の窓口を明示している。日常的には職員が意見を聞き、必要に応じて担当係長が対応し、場合によっては課長が対応することもある。虐待防止については、職員の言葉遣いや行動について月1回のミーティングで周知と意識啓発を図っている。虐待事案発生時には、子ども家庭支援センターや小学校など関係機関と連携し、迅速な対応を行う体制である。一方で、虐待に関する基本的な知見のさらなる充実のため、研修受講体制の整備が望まれる。 事業の透明性の確保のため情報を公開し、地域の福祉ニーズに応えている 事業の透明性向上と地域との関係づくりに向けた取り組みとして、市ホームページに学童クラブの紹介や第三者評価の結果を掲載し、学童クラブのしおりも公開している。また、月1回の学童クラブだよりを発行し、活動の様子を保護者に伝えている。今後は掲示板の活用など、より広く情報を開示することも望まれる。大学看護学科の実習生を受け入れ、学びの場を提供している。学童クラブの活動そのものが地域の福祉に貢献する要素を持つため、今後は行事などを通じて学校の教員や子ども、保護者の参加も促していこうとしているため期待ができる。

4 カテゴリー4		
リスクマネジメント		
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 3/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる 評点(○○○●●)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
○あり ●なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
○あり ●なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている 評点(○○○○)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリー4の講評		
子ども・保護者、職員の安心、安全のためにリスクマネジメントを実践している 災害や不審者対応を最優先リスクとして位置づけ、防災避難訓練を年3回実施している。学童クラブ緊急時対応フローを策定し、地震、火災、事故、不審者侵入、アレルギー症状発生時、台風・大雨・大雪時の対応を明確化し、職員が常時確認できる体制を整えている。感染症対策としては、手洗い・うがいの徹底により感染拡大を防止し、状況に応じた適切な対応を行っている。また、学童クラブ指導事務手引きでリスク管理の仕組みを構築しており、事故や感染症の発生時には、情報共有と対策の見直しを行い、再発防止に努めている。 安全計画を策定し対応フローも明記しているが、早期に事業継続計画の策定を期待したい 安全管理の取り組みとして、安全計画を策定し、学童クラブ指導事務手引きに健康管理・安全指導、事故・ケガ発生時の対応フローを明記している。災害時の対応として、年3回の防災避難訓練を実施し、火災・地震・不審者対応などを計画的に行っている。また、緊急時には学校内の教員や職員と連携できる体制が整っている。職員の安否確認も試行しており、今後の定着が期待される。一方で、事業継続計画(BCP)の策定が途上であるため、早期にBCPを策定し、職員や保護者に周知し、訓練を実施することを期待したい。 事業所の取得するセンシティブ情報は安全に管理され活用可能である 市の個人情報保護法施行条例に基づき、職員には周知および研修を行っている。また、実習生にも周知を図っている。利用学童のデータはアクセス権限を設定し、暗証番号管理を行うことで情報漏えい防止策を講じている。情報の整理・管理については、必要な時に活用できるよう個人ファイルで管理し、適切な運用を行っている。保護者には個人情報利用の同意書を取得し、Web入所申請時にも重要確認事項への承諾、確認を行うなど、利用目的の明示に努めている。今後も継続的な周知と管理体制の強化が期待される。		

5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 9/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	☐ 非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している 評点(●●●)		
評価	標準項目	
☐ あり ☒ なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	☐ 非該当
☐ あり ☒ なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	☐ 非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	☐ 非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる 評点(〇〇〇●)		
評価	標準項目	
☐ あり ☒ なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	☐ 非該当
サブカテゴリ2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	☐ 非該当

カテゴリー5の講評

市のホームページを活用し募集を行い人員確保の体制を整備している

人材確保に関しては、必要な要件を明示して募集を行い、採用時には職員としての適性や人格を見極めた上で配置している。現在、欠員はなく、会計年度職員の採用により安定した人員配置を確保している。欠員が生じた場合には、市のホームページで募集を行い、面接を経て採用する仕組みが整備されている。配置に関しては、子どもへの影響を考慮するとともに、職員間の人間関係にも配慮した上で決定しており、円滑な職場環境の維持に努めている。近々民営化を予定しており、現時点での採用は最小限にとどめている状況である。

研修計画に則った研修受講で育成に取り組んでいるが、さらなる研修の強化を期待したい

公立学童クラブ内での研修を受講し、内容は第2種会計年度職員に共有している。また、外部講師による合理的配慮の研修や係長によるペアレントトレーニングの抜粋版の提供など、専門性向上の機会を設けている。研修受講後には振り返り、職員間での共有を徹底しているほか、学習レベルや研修受講履歴の確認を行い、継続的な学びの支援に取り組んでいる。一方で、会計年度職員採用のため長期的なキャリアパスの設定には馴染みにくい状況にある。ベテラン職員が多い環境の中で新たな知識習得の必要性も指摘されており、今後のさらなる研修強化が望まれる。

職場環境の把握と改善に取り組み、福利厚生などで職員の意欲向上に取り組んでいる

職員の定着や意欲向上に向けた取り組みとして、休暇取得や勤務状況、ストレス度の把握に努め、年1回のストレスチェックを実施している。また、日々の勤務状況を確認し、有給休暇の取得率や職場環境をチェックすることで、心身ともに安定した勤務体制を整えている。係長が現場の様子を把握し、必要に応じて個別面談を行うことで、職員が働きやすい環境づくりに努めている。さらに、公的な福利厚生制度にも加入しており、職員の働きやすさを支える体制が整えられている。

7		事業所の重要課題に対する組織的な活動	カテゴリー7
サブカテゴリー1(7-1)			
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている			
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)			
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)			
前年度の重要課題として、毎年、障害児や配慮が必要な子どもの入所があるため、指導計画において「一人ひとりの気持ちを理解し、様々な場面で褒めたり認めることで、子どもの自己肯定感を高める」という目標を掲げて日々の育成にあたっていくとした。課題を抽出した背景として、育成の中で個々の子どもとの関わりが重要である一方で、配慮が必要な子どもへの適切な声かけや対応に悩むことが多くある。加えて、支援が必要な子どもの数が年々増加している現状において、支援員同士の話し合いや研修の実施を通じて、日々対応力の向上に努めていることがあげられる。取り組みとしては、外部講師を招き、令和5年度および令和6年度に「発達の気になる子への対応を考える」「発達の気になる子への対応を考える2～実践編」の研修を実施し、日々の育成に活かすとした。また、今年度入所した難聴の子どもや、耳からの情報処理が苦手な子どもに対しては、研修でも学んだ「合理的配慮」の一環として、ホワイトボードを活用し、連絡事項や注意事項を視覚的に伝える工夫を行うこととした。こうした取り組みを継続しながら、支援体制の充実を図っていくとした。			
目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった		
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である		
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である		
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評			
取り組みの結果として、ホワイトボードを活用し、必要な情報を記入することで、配慮が必要な子どもが円滑に行動しやすくなった。視覚的な情報提供により、指示や注意がより明確になり、子どもの理解が深まった点が大きな成果である。また、この取り組みは配慮が必要な子どもだけでなく、ほかの子どもにも有効に機能し、全体の行動がスムーズになった。さらに、支援員が全体に指示・注意をする際に声を大きく出す必要が減り、学童クラブ全体の雰囲気落ち着くという相乗効果も生まれた。このように、ホワイトボードの活用が職員・子ども双方にとって良い影響を与えていることが確認された。今後の方向性としては、この相乗効果を活かし、継続的に取り組んでいくことが重要である。現在の活用方法を定着させるだけでなく、より効果的な運用方法を模索し、他の支援策との連携を図ることも検討すべきである。例えば、より見やすいフォーマットの工夫や、子ども自身が情報を記入する機会を設けることで、自主的な行動を促すことも考えられる。今後も、支援員同士での意見交換や研修を重ねながら、学童クラブ全体の環境をさらに向上させていくとしているため期待ができる。			

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

前年度の重要課題として、異年齢での生活、遊び、グループ活動、行事を通して、ルールを守ることの大切さや相手への思いやりの心を育てることを掲げた。課題を抽出した背景として、コロナ禍により、子どもが様々な経験を十分に積み重ねた時期が続き、人とのつながりやコミュニケーションの取り方が希薄になった。その結果、「相手」があつてこそ成立する関係性を築く機会が減少し、社会性の発達に課題が生じていた。しかし、こうした関係性は子どもの成長や今後の生活において不可欠であると考え、異年齢との関わりを通じた学びの機会を意識的に提供する必要があつたと考えたからである。取り組みとしては、コロナ禍においては、子ども同士の密な接触を避けるため、遊びは机上での一人遊びが中心となり、行事も支援員が主体となって実施していた。しかし、感染状況が落ち着いた前年度より、遊びや行事の活動形態を徐々にグループ活動へとシフトさせた。

目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

取り組みの結果として、子ども同士のコミュニケーションがスムーズになり、相手を思いやる気持ちが以前より芽生えていく姿が見られた。グループ活動や異年齢交流を通じて、子どもたちが互いに関わる機会が増えたことで、自然とルールを守る意識が高まり、協力し合う関係性が築かれつつある。このような変化は、支援員の適切な関わりや、グループ活動の促進といった環境づくりの成果であり、学童クラブ全体の雰囲気にも良い影響を与えている。今後の方向性として、子ども同士が自らの気持ちを相手に伝え、思いやる姿がより定着するよう支援を継続していく。支援員は過度に介入せず、見守る姿勢を大切にしながら、必要なタイミングで適切なサポートを行い、子ども自身が主体的に関係性を築けるよう促していくとしているため期待ができる。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目 (カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	4 / 4
評価項目1 子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している			
評点(〇〇〇〇)			
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	3. 事業所の情報を、行政や保育所、幼稚園等に提供している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学等の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	☐ 非該当
サブカテゴリー1の講評			
学童クラブの概要や利用方法を分かりやすく提供することに努めている 「学童クラブのしおり」を申請開始時に配付し、市のホームページにも施設規模などの情報を掲載することで、利用希望者が事前に施設の内容を把握できるよう工夫している。また、入所説明会では、施設見学の機会を設けるとともに、持ち物や安全対策について詳しく説明しており、保護者が安心して子どもを学童クラブに預けられるよう、具体的な情報を提供している。学童クラブと同じ小学校内で、市のサービスである「放課後子ども教室」が実施されており、その詳細についても「学童クラブのしおり」に記載している。 子どもたちの活動の様子が伝わりやすいよう、情報の表記や内容を工夫して提供している 「学童クラブのしおり」は毎年新しいものを作成し、最新の情報を提供できるよう努めている。また、「学童クラブだより」は支援員が作成し、1～2年生の担任にも共有した上で、毎月保護者に配付している。活動の様子を写真とともに掲載し、文章だけでなく視覚的にも理解しやすい形で情報を発信している。お迎え時間が多くなる17時半以降の時間帯には、直接手渡することで、確実に情報が伝わるよう工夫している。保護者会では行事や活動の様子を写真のスライドショーで紹介することで、視覚的にわかりやすく伝える工夫を行っている。 保護者や子どもからの見学希望や問い合わせには個別の状況に応じて対応している 見学希望があった場合には、保護者の都合を聞きながら日程を調整し、できるだけ希望に沿った形で対応している。見学希望自体はそれほど多くはないものの、入所決定後に施設を見に来るケースは多く、その際には丁寧に案内を実施している。また、見学が難しい家庭には、電話で質問を受け付けることで、直接訪問できない場合でも必要な情報を提供できるよう配慮している。入所前の健康診断時に学童クラブの様子を確認したいという要望があった場合にも、可能な範囲で対応している。			

サブカテゴリー2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 7/8
評価項目1 サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、理解を得ている 評点(○○○)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の理解を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている 評点(○○○○●)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)の受入れに向けた配慮及び環境整備を行っている	○非該当
○あり ●なし	5. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、生活の連続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリー2の講評		
全体説明会を行い、持ち物や生活などの基本的ルールを説明している 入所決定後に全体説明会を実施し、「学童クラブのしおり」に沿って基本的なルールや生活の流れについて説明している。持ち物や学童クラブでの過ごし方、安全対策などについて具体的に伝え、保護者が安心して子どもを預けられるよう配慮している。アレルギーの有無や医療的な配慮が必要な場合には、事前に保護者からの申告を受け、必要に応じて「学校生活管理指導表(コピー)」の提出を依頼している。説明会后、質問などがある保護者には個別の相談時間を設けて詳しい説明や対応を行い、必要があれば後日改めて面談を設定するなど柔軟に対応している。		
子どもの援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している 子ども一人ひとりの状況を適切に把握し支援の質を向上させるために、記録管理と情報共有に取り組んでいる。面談記録シートには保護者との面談で把握した内容を記録し、PC上で保管している。また、日々の育成記録として育成日誌を作成し、時間ごとの実施内容や子どもの様子、気になる点などを詳細に記載することで、支援員間の情報共有を図っている。加配が必要な子どもについては、個別の加配状況記録表を作成し、支援の経過を把握できるようにしている。新入所に際しては事前に面談を実施し、子どもの状況を把握することに努めている。		
配慮が必要な子どもの受け入れに向けた配慮及び環境整備を行っている 子ども一人ひとりの特性を理解し、それぞれの課題や発達状況に応じた支援を行うため定期的に話し合いを行い、支援の仕方や環境設定について職員間で共有し方向性を統一することで、どの職員も同じ配慮のもと支援ができるように努めている。配慮が必要な子どもへの対応として、支援員が適切にサポートできるよう研修を実施しており、環境面の工夫も行っている。コロナ禍で使用していたパーテーションを活用してクールダウンのための個別スペースを確保することや、廊下や支援員の事務機のスペースで過ごすなどの配慮をしている。		

サブカテゴリ-3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 9/10
評価項目1 子どもの視点に立った育成支援の目標に沿って育成支援の計画を作成している 評点(○○○●)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 育成支援の計画は、目標に沿って年間を見通して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 育成支援の計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、援助の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)に対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
○あり ●なし	4. 育成支援の目標や計画について保護者の理解を得られるように説明している	○非該当
評価項目2 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している 評点(○○○)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 育成支援の計画に沿った援助の内容について具体的に記録している	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)については一人ひとりの子どもの状況や援助の内容を具体的に記録している	○非該当
評価項目3 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(○○○)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 育成支援の計画の内容や記録を、職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当
サブカテゴリ-3の講評		
年度当初の目標設定と指導計画の策定を行っている 年間指導計画に基づき、学童クラブでの生活や活動を計画的に進め、子どもが安心して過ごせる環境を整えることを目指し、年度当初に、支援員が話し合いを行い、育成目標や指導計画を策定している。その際、前年度の目標や実施状況を振り返り、継続すべき点や新たに強化すべき点を整理し、より効果的な支援につなげている。1年生が持ち上がる形で進む場合が多いが、2年生からの入所も少数あるため、新入所児の適応を支える工夫も行っている。子どもの特性や発達段階を考慮しながら、支援の方向性を検討し、年間を通じた育成の目標を明確にしている。 子どもの変化や支援内容について適切に記録を作成している 子ども一人ひとりの状況を的確に把握し、適切な支援を行うために、情報を記録・管理する仕組みを整えている。日々の子どもの様子や気づいた変化については育成日誌に記録し、職員間で共有できるようにしている。ケガや体調の変化については連絡帳に記載し、保護者へ確実に伝達することで、子どもの健康管理に努めている。これらの情報は、PC上でも管理し必要ときに参照できるようにしており、職員間での情報共有が円滑に行われ、保護者への迅速な対応が可能となっている。日々の記録を通じて、より良い支援が提供できるよう努めている。 子どもに関する情報を共有し事例検討も行っている 子どもたちの成長や支援に関する情報を、定期的な会議を通じて職員間で共有している。育成支援計画についても、会議の場で話し合い、支援の方向性を確認しながら進めている。また、欠席の職員に対しては会議録を印刷して配付し、情報の漏れがないよう努めている。日々の業務の中でも職員同士が子どもの状況について話し合い、支援の方法を検討する機会を確保している。学童クラブ内での研修を実施し、職員が専門的な知識を深めるほか、実際に子どもたちの様子や気になる言動を事例として取り上げ、具体的な対応策について議論する場を設けている。		

サブカテゴリ-5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どものプライバシーに配慮して援助している	☐ 非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 日常の援助の中で子ども一人ひとりを尊重している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮して援助している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 学童クラブ内の子ども間の暴力・いじめ等が行われることのないよう組織的に予防・再発防止を徹底している	☐ 非該当
サブカテゴリ-5の講評		
子どもに関する情報管理とプライバシー保護への取り組みを適切に行っている 電子申請の導入により子どもに関する記録は市で一括管理されており、より適切な情報管理が行われるようになっていく。職員は、年1回の研修を通じて個人情報の取り扱いや管理方法について確認し、適切に運用できるよう努めている。日々の育成にあたっては子どもたちのプライバシーを尊重し、配慮した対応に取り組んでいる。着替えの際には衝立を使用し、周囲の目を気にせず安心して着替えられる環境を整えており、子どもたちが安心して学童クラブで過ごせるよう、環境の整備と情報管理の徹底に努めている。		
子どもの気持ちに寄り添う育成と意見の尊重に努めている 子どもの気持ちに寄り添った育成を心がけ、日々の関わりの中でその思いを大切にしている。子どもの意見や要望については、可能な限り実現できるよう努め、おやつや本のリクエスト、席替え、活動などについても、毎月意見を集計し、掲示することで透明性を持たせている。子どもたちの創造的な表現も尊重し、描いた漫画を職員や友達に読んでもらいたいという声を実現するなど、自己表現の場を大切にしている。月に1回児童館から本を借りてくる際はリクエストに対応し、興味を持つ本を取り入れることで、読書への関心を高める工夫をしている。		
子どもの気になる行動や事柄について関係機関と情報共有を行う体制を整えている 学童クラブにおいて問題が発生した場合には、担当係長や児童青少年課と情報を共有し、必要に応じて子ども家庭支援センターにつなげる体制を整えている。低学年の子どもが多いため、その場で職員が関わることで解決できるケースがほとんどであるが、保護者にも適宜伝えることで、家庭と連携をとりながら子どもの成長を支援している。帰り道でのトラブルについては、保護者や子どもからの話を聞き、状況を把握するよう努め職員間で共有している。席の割り振りにも工夫をし、子ども同士の関係が円滑に築けるような環境づくりを心がけている。		

サブカテゴリ-6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	☐ 非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映するようにしている	☐ 非該当
サブカテゴリ-6の講評		
事務手引きを整備し、提供しているサービスの基本事項や手順などを明確にしている 提供しているサービスの基本事項や手順を明確にし、職員が適切に対応できるよう体制を整えている。「学童クラブのしおり」や「学童クラブ指導事務手引き」を作成し、職員が必要に応じて確認できるよう育成室に常備している。また、支援員一人ひとりが事務手引きを所持し、日々の業務の参考にできるようにしている。パート職員についても育成室で手引きを確認できる環境を整え、業務の標準化や質の向上を図り、どの職員も同じ基準で対応できるよう努めており、学童クラブ全体で一貫性のある支援を提供できるように取り組んでいる。		
「学童クラブのしおり」や事務手引きを常備し相談体制を整備している 「学童クラブ指導事務手引き」には、学童クラブ指導要領の解説をはじめ、事故発生時の対応、対応フロー、アレルギー対応、災害・緊急時の対応などが明示されており、職員が運営の基本事項や対応手順をすぐに確認し対応できるようにしている。また、職員が業務の中で疑問を感じた際には、速やかに上司に相談・質問することを徹底しており、適切な判断ができるよう支援体制を整えている。事務手引きを活用した業務の標準化と、職員間の情報共有を徹底することで、円滑な運営を図っている。		
書類の改訂は市が担当し、現場の意見を市へ伝える機会が設けられている 「学童クラブのしおり」や「学童クラブ指導事務手引き」については毎年見直しを行い、運営の改善に努めている。書類の改訂は市が担当しており、職員同士の会議や、他の学童との意見交換の場を通じて、現場の意見を市へ伝える機会が設けられている。また、市からのヒアリングを通じて、学童クラブの運営上必要な修正点や職員の要望が反映される仕組みとなっており、運営の実情に即した改善が行われている。しかしながら保護者などからの意見や提案を反映する仕組みは整備されていないため、今後の対応が望まれる。		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

サブカテゴリ4																
サービスの実施項目	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 25/27															
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している 評点(〇〇〇〇) <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげるなどができるよう援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table>		評価	標準項目		●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している	○非該当	●あり ○なし	2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している	○非該当	●あり ○なし	3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげるなどができるよう援助している	○非該当	●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当
評価	標準項目															
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している	○非該当														
●あり ○なし	2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している	○非該当														
●あり ○なし	3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげるなどができるよう援助している	○非該当														
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当														
評価項目1の講評 入所申請書の記述や面談などにより子どもの全体的な姿の把握に努めている 入所申請書に保護者が記載している特性情報や入所面談の際に保護者から聞き取った情報より子どもの特性を把握し、保護者の意向に沿った支援ができるように配慮している。また、入所申請書を受け取った際に就学時相談などのチェックがある場合は、保育園や幼稚園などから様子を聴き取り子どもの特性を把握することで援助に反映できるようにしている。入所後は、日々職員間での申し送りに努め、ミーティング時に情報共有できるようにしている。 子どもが言葉や容姿の違いなどを受け入れられるような環境作りをしている 外国にルーツのある子どもについては、片言ではあるが言葉が通じるのでわかりやすく伝えることに努めている。容姿の違いによりほかの子どもからの言葉で傷つくことが無いよう入所当初は子ども同士の交流時に注力していたが、現在では子どもたちもその子の個性として受け入れられていることである。子どもの自然な疑問や戸惑いを職員が受け入れ対応することで、子どもがいろいろな環境を受け入れる・受け入れられる機会となっていることが読み取れる。 職員間で情報共有に努め要支援児に対して統一した支援ができるようにしている 配慮が必要な要支援児も在籍しているが、個々の特性や家庭状況を職員間で情報共有し、援助の仕方を話し合い、環境整備などにつなげている。また、小学校の担任教諭とも情報共有するなど、子どもへの統一した支援をタイムリーに提供できるよう配慮している。保護者にはお迎えの際にその日の様子を伝えるなど保護者とも子どもの成長と一緒に見守れるようにしている。子どもたちは障害があっても障害を個性だと捉えて、少しずつ一緒に遊ぶ姿などが見られている。ただし、室内は育成室のみとなっているためクールダウンの場の提供に苦慮している。																
2 評価項目2 日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している 評点(〇〇〇) <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table>		評価	標準項目		●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している	○非該当	●あり ○なし	2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している	○非該当	●あり ○なし	3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している	○非該当			
評価	標準項目															
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している	○非該当														
●あり ○なし	2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している	○非該当														
●あり ○なし	3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している	○非該当														
評価項目2の講評 子どもたちが主体的に安全に遊べる環境づくりに努めている 育成室は子どもが主体的に遊べるような環境になるよう配慮しており、例えば本棚や収納場所を見やすくすることで、使いやすく片づけやすい配置になるよう工夫をしている。また、意見箱を設置することで、直接職員に自分の意見を伝えることができない子どもでも職員に自分の意見を伝えられるような環境づくりをしている。子どもの自由な意見や発想も、安全面や育成室の環境上可能であれば反映するようにしている。 子ども同士の交流やコミュニケーションがスムーズに進むように支援をしている 現在は1. 2年生のみの子どもたちのため、ゲームをしくても遊び方がわからず戸惑うこともあるが、そのような場合は最初に職員も加わり遊びながら、少しずつフェードアウトして子どもだけで遊べるように配慮している。1. 2年生は言葉を覚えて会話を楽しめるようになる年齢時にコロナ禍となり、友だちとの会話やコミュニケーションの経験が少ない傾向にあり、友だちへの声かけが苦手な子どもも多いとのことである。職員はそれらを把握したうえで、友だち同士の交流がスムーズにできるような支援に努めている。 ルールを守ることで楽しく遊べる環境になることを伝えている 育成室でのルールや楽しく遊ぶには遊びのルールを守ることが大切であること、相手への思いやりが必要であることを伝えている。また、要支援の子どもにも伝わりやすいように、流れを絵カードを見せて伝えるなどの工夫にも努めている。子ども同士のトラブルについては見守ることを基本姿勢としているが、幼さのためにトラブルとなっている時には職員が間に入り、互いの思いを理解できるように仲立ちをしている。一方で、1. 2年生だけのメンバーのため当番活動が難しく、この点については課題となっている。																

3	評価項目3 日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 子ども同士が意見を出し合いながら企画や活動をつくり上げていく機会を設けている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	☐ 非該当
評価項目3の講評			
子どもが前向きに行事に参加できるような声かけに努めている 七夕、ハロウィン、お店屋さんごっこなど、年間を通して多くの行事を行っているが、各班で役割分担を決め準備を進めている。行事当日は自分の分担の仕事をしながら楽しく参加する姿を見せており、行事を経験することで達成感の経験にもつながっている。なかには、準備作業に自分から参加しない子どもやできない子どもも居るが、その子の意思も尊重して見守りながら声かけをするなどの対応に努めている。現在は、低学年のみの構成となっているが、その中でできる行事を子どもと一緒に関わりながら増やしていくことをさらに検討していきたいとしている。 行事に積極的に参加できるように子どもの意見を取り入れながら行事を実施している 当学童クラブは現在は低学年のみの在籍であるが、子ども同士で意見を出し合い準備などを進められる環境づくりを目指している。職員が助言をしながらではあるが、企画や発案なども子どもの意見を取り入れながら進めることを大切にしている。「お店屋さんごっこ」を実施した際も、職員の①商品を決める ②お金を渡す ③おつりを受け取る ④商品を受け取るなどの経験につなげようと計画していたが、子どもから「今は電子マネーだから『ピッ』で終わり」の意見も受け入れて修正するなど、子どもの意見を尊重した行事の実施につなげている。 行事の際には事前に「学童だより」にて行事の詳細を保護者に伝えている 行事が近づくと「学童だより」の「今後の予定」欄にて行事について伝えることで、保護者の行事への周知を図っている。「学童だより」には子どもたちが行事を実施するための製作する姿や準備をする姿などの写真を掲載し、ビジュアルで子どもの様子を伝えることで保護者の行事への理解が深まるように配慮している。ただし、子ども以外の参加者のある活動はないとのことで子どもの視野や経験が限定されているのではないかと憂慮される。短時間でも保護者または在校生、地域の方などとの交流を楽しめる機会となる行事開催も期待したい。			
4	評価項目4 子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が楽しく、快適になるような取り組みを行っている		評点(〇〇〇)・非該当1
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 子どもが自ら進んで学童クラブに通い続けられるよう援助している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 共通する生活時間の区切りをつくり、子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるよう援助している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	3. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している	☐ 非該当
	☐ あり ☐ なし	4. 【「新・放課後子ども総合プラン」「都型学童クラブ実施要綱」に基づき放課後子供教室と一体型で実施、または連携して実施する場合】 子どもが放課後子供教室の活動プログラムに参加しやすいように連携を取りながら援助している	☒ 非該当
評価項目4の講評			
登所時の挨拶とともに元気確認に努めている 子どもが学童クラブに登所した際に、子どもと元気に挨拶を交わすことを大切にしている。職員はその挨拶とともに今日学校であったことなどを聴き取り、子どもの学校での様子を把握して支援につなげている。学校での様子を職員に話すことを楽しみにしている子どもも多く、そのやり取りの中で一人ずつの「元気確認」に努めている。今の低学年の子どもは、人との交流が広がり会話を楽しめるようになるという成長の時期にコロナ禍があり、人と会話する経験が不足している傾向があるので、挨拶も含めた子どもとのコミュニケーションに注力している。 子どもの意見は一度受け入れることで検討するなど意見を尊重することを大切にしている 支援室のホワイトボードには1日の流れを掲示しており、子どもたちが視覚でもこれからの支援室での時間の流れがわかり、自ら動けるようにしている。子どもから出た意見は、一度聞き入れ受け入れてから「〇〇するのはどうかな」と支援室の状況や安全面などを考慮して伝えることにしている。意見に添えなかった時にも理由を伝えるなど、子どもの意見に職員が対応していることが伝わるように努め、一人の人としての意見を尊重するよう配慮している。なお、支援室には意見箱を設置しており、出された意見に対しては可能であれば対応している。 安全に過ごせることを大切にしている 当学童クラブは支援室1室のため、校庭などで遊ぶ以外は支援室での活動となる。そのため、日々の清掃に加え、土曜日の育成時に重点的に清掃や遊具整理を職員で行っている。育成室では静と動の遊びが混在することで子ども同士がぶつかるなどによるケガを発生させないよう、動線には注力している。また、子どもにも危ない行動などの情報を伝えることでケガの回避に努めており、時にはケガ防止のためにルールを変えようと案内することもある。			

5	評価項目5 子どもが日々の生活を円滑に過ごせるよう、学校等と密に連携を図っている			評点(〇〇〇)
	評価	標準項目		
	☒ あり ☐ なし	1. 子どもが学童クラブでの生活を円滑に過ごせるよう、学校との情報交換や情報共有等密に連携して援助している	☐ 非該当	
	☒ あり ☐ なし	2. 不登校など課題を抱える子どもについて、学校と密に情報共有しながら子どもの気持ちに配慮して援助している	☐ 非該当	
	☒ あり ☐ なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)や養育環境で特に配慮が必要な子どもの援助にあたっては、関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって行っている	☐ 非該当	
評価項目5の講評				
小学校との情報共有に努め、関係性の構築にも努めている 当学童クラブは稲城市第四小学校内にある学童クラブのため、登所してくる子どもは第四小学校に在籍している。校舎内の学童クラブということで、教員と学童クラブの職員との情報交換が行いやすく、必要であれば、小学校の担任教員に学校での様子を確認したり、学童クラブの様子を見に来てもらうなどの関係性が構築されている。また、小学校との連携を重視し、学校連絡アプリに登録し情報を得ることに努め、学校行事や下校時間なども配慮して学童クラブのスケジュールを組むなどの配慮をしている。 見守りが必要な子どもへの目配りに努めている 現在不登校の子どもは居ない。複雑な家庭環境により見守りや配慮が必要な子どもに対しては、子どもの様子や家庭状況などを小学校の担任教員と情報を共有し、連携して対応できるように配慮している。また、その子の中できっかけがあり興奮してしまった時は、職員が危険がないよう見守ったり、クールダウンできる場所に誘っている。年度当初、子どもたちは痙攣症状を見て驚いていたが、その子の個性として少しずつ受け入れることができるようになり一緒に遊ぶ姿も確認されている。互いの成長が見られ、職員の子どもたちへ適切な対応の結果と思われる。 障害児や配慮が必要な子どもへの支援を充実させるために情報共有に努めている 障害児や配慮が必要な子どもについては、小学校の担任教員と情報共有し、保護者とも負担にならない範囲で情報共有することに努めている。スマイル教室(障害者支援教室)に通っている子どもも在籍しているが、施設の職員が毎月お便りを届けに来所する際に情報共有するなど、子どもの育ちを支援できるようにしている。現在複数名の障害児や配慮が必要な子が通所していることを鑑み、各障害の症状や特徴などを所内研修し、個々の子どもへの適切な支援ができるような体制づくりにつながることを期待したい。				
6	評価項目6 子どもがおやつを楽しめるよう援助している			評点(〇〇〇)
	評価	標準項目		
	☒ あり ☐ なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いておやつをとれるような雰囲気作りに配慮している	☐ 非該当	
	☒ あり ☐ なし	2. 子どもの来所時間や夕食の時間帯等を考慮して提供時間や内容、量等に工夫を凝らしている	☐ 非該当	
	☒ あり ☐ なし	3. 子どもの食物アレルギーの状況に応じたおやつを提供している	☐ 非該当	
評価項目6の講評				
おやつは種類を豊富にすることで子どもがおやつを楽しめるようにしている 学童クラブの育成室の子どもの席はそれぞれ決まっているが、おやつの際もその席の班ごとに着席して落ち着いて食べることができるようにしている。おやつを食べる楽しさだけでなく、くじ引きで順番を決めたり、バイキング形式で個包装のおやつを3つ選べるようにするなどのおやつを食べるまでの過程も楽しめるように工夫をしている。また、果物や夏にはアイスなども用意するなど、おやつの種類を豊富にすることで季節感なども盛り込めるようにしている。 安心安全なおやつを提供に努めている おやつは保護者から「生協で購入」という依頼を受けて職員が購入しているが、購入する際には、添加物に配慮した安全なおやつ、季節を感じるようなおやつを提供するようにしている。また、おやつの種類を選ぶ時にも子どものリクエストのおやつを取り入れるなど、子どもがおやつを楽しみにできるように配慮している。学童クラブでのタイムテーブルは基本的な時間が部屋の中に掲示されており、毎日同じ時間におやつとなるため、子どもたちはその時間を意識しながら動くことができている。 アレルギー児は誤食につながらないよう別席で喫食している アレルギー児は保護者が用意したおやつを持参し、個別席で喫食することで誤食を起こさないようにしている。喫食時は職員が近くで見守り、誤食や容体急変などの緊急時には職員が急変時用に預かっている薬を与薬できるような体制をとっている。一方で、行事の際にはほかの子どもたちと同じおやつを食べられるようにアレルギーに配慮したおやつを用意するなど、細やかな配慮をしている。ただし、子どもたちが過ごしている育成室は狭いため、アレルギー児が複数になると別席対応が難しくなることを職員は課題としている。				

7	評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している 評点(○)・非該当1		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるよう援助している	○非該当
	○あり ○なし	2. 医療的ケアが必要な子ども等に、専門機関等との連携に基づく対応をしている	●非該当
評価項目7の講評			
手洗い・手指消毒を促し感染症予防に努めている 子どもが学童クラブへ登所してきたときは手洗い手指消毒を促し、感染症の予防に努めている。育成室の洗面所にも手洗いを促すポスターを掲示して視覚からも子どもたちに手洗いを促せるようにしている。ケガや体調不良の際には、子どもがすぐに職員に報告できる信頼関係を築くことを重視し、年度当初より意識して子どもとの関係性構築に注力している。校庭で遊ぶ時は校庭と育成室の2か所での活動となるため、ケガなどの予防のためにも子どもたちの遊びを安全に見守れるように職員も2か所に配置し、子ども全体を見守るようにしている。 当学童クラブには医療的ケアが必要な子どもは在籍していない 医療的ケアの必要な子どもは在籍していない。アレルギー児については、アレルギーなどが記載された医師の指示書提出により対応しており、アレルギー対応の薬を預かり冷蔵庫に保管している。薬の与薬については職員研修を行い周知を図っており、全職員が対応可能となっている。ただし、エピペンや応急手当などの研修実施を課題としており、職員の緊急時の対応の質向上や情報共有のために研修実施を期待したい。なお、預薬や医者からの指示書のコピーなどを避難訓練に持ち出すなどの実際の緊急時を想定しての流れも期待したい。			
8	評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている 評点(○○○○○)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
	●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
	●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
	●あり ○なし	4. 子どもの様子や発達の状況について、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
	●あり ○なし	5. 子どもの出欠席の確認など、保護者と協力して安全を確保する取り組みを行っている	○非該当
評価項目8の講評			
家庭状況などに配慮し個々の育成支援を行っている 入所申請書や児童台帳の情報をもとに、各家庭の状況を把握しながら育成を行っており、個々の子どもの特性や家庭の状況に配慮した支援が可能となっている。放課後デイサービスを利用している子どもについても、関係機関との連携を図りながら対応を進めており、学童クラブから送迎を受ける体制を整えている。夏休み期間中は、午前中の2時間程度を学童クラブで過ごした後、放課後デイサービスへ移動する対応をしているケースもあるなど、子ども一人ひとりの生活リズムに合わせた柔軟な支援を行っている。 子どもの様子や発達の状況について、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている 1年生の保護者を対象に、夏休み前の確認や4月からの子どもたちの様子を伝えるための保護者会を開催している。保護者会ではスライドショーを活用し、子どもたちの活動の様子を視覚的に伝える工夫をしており、新しい環境に慣れる過程や日々の遊び・学習の様子を具体的に伝えることで、保護者が安心して子どもを預けられるよう配慮している。また、夏休みの過ごし方や学童クラブでのルール・注意点などについても説明し、家庭との連携を深める機会としている。 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みを行っている 保護者が来所した際に、子どもの様子を積極的に伝え、日々の成長や活動の様子を共有することを大切にしている。送り迎えの際の短い会話の中でも、その日の出来事や子どもの頑張ったこと、楽しんでたことなどを伝えるように努めている。また、1日育成の際には、習い事に行く子どももいるため、そうしたスケジュールを考慮しながら保護者と適宜情報共有を行っている。子ども一人ひとりの状況を把握し、保護者と密に連携を取ることで、家庭と学童クラブの両方で安心して過ごせるよう配慮している。			

9	評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(●●)
	評価	標準項目	
	☐ あり ☒ なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	
	☐ あり ☒ なし	2. 学童クラブの行事に地域の方の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが地域の子どもや大人と交流できる機会を確保している	☐ 非該当
評価項目9の講評			
子どもの生活の幅を広げるための取り組みも期待したい 地域資源を活用した活動や、学童クラブの行事に地域の方を招待するなどの活動は行っていないとのことである。子どもたちの生活や経験の幅を広げるためにも地域の方と交流する機会や異世代交流などにつながる活動も期待したい。			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	2-1-1	事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している
タイトル①	子どもの意向を把握し、主体性を尊重しながら安心できる環境を整備している	
内容①	子どもの意向の把握のため、ベテラン職員による寄り添った意向聴取と意見箱の設置などで、子どもたちの希望を積極的に取り入れようとしている。遊具の選定においても、子どもの要望を反映し、より充実した遊びの環境を提供することで、主体性を尊重する姿勢を示している。また、個人の考えや気持ちを大切に、一人ひとりに寄り添った対応を心がけることで、安心して過ごせる環境づくりを推進している。職員自己評価では「子どもの自主性を大切にしている」「子どものニーズを把握して要望を叶えようとしている」など良い点として挙げている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-2-2	サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている
タイトル②	利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	
内容②	新年度の4月1日から子どもたちの受け入れを開始し、1年生が新しい環境に慣れるまで、保護者の希望に応じて午前中からの短時間利用などにも柔軟に対応している。新2年生が1年生のお世話を担当し、ルールを教えることで、1年生が安心して学童クラブでの生活に溶け込めるよう配慮している。4月当初はお弁当持参での生活となるため、午前は製作活動を行い、午後には自由遊びや外遊びを取り入れるなど一日を通して活動のバランスを取りながら、新しい環境での遊びの広がりや緊張感などに配慮している。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-4	子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が楽しく、快適になるような取り組みを行っている
タイトル③	子ども・職員ともに挨拶する時間を大切にしている	
内容③	子ども同士・子どもと職員・職員同士など「あいさつ」を重視している。子どもたちが学童クラブに登所した際も、子どもと元気に挨拶を交わすことを大切にしている。挨拶とともに今日学校であったことなどを聞き取り、子どもの学校での様子を知ることでその日の子どもの気持ちや様子の把握につなげ、一人ずつの「元気確認」としている。学校での様子を職員に話すことを楽しみにしている子どもも多く、学校からの下校時の子どもと職員との良いコミュニケーションの時間となっている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子どもの様子や日々の出来事を保護者へ伝え、安心感を持ってもらえるよう心がけている
	内容	子どもたちが日々安心して安全に過ごせるよう、職員全体で配慮しながら育成支援を行っている。一人ひとりの状況を丁寧に把握し、それぞれに適したサポートを提供できるよう努めている。また、お迎えの際には職員が積極的に保護者とコミュニケーションをとることで、日々の様子を共有し、信頼関係を深めている。職員間でも情報共有を徹底し、子どもの変化や気づきを記録・共有することで、一貫した対応を図っている。保護者が気軽に相談や質問ができる環境づくりに力を入れており、安心して子どもを預けられる場となるよう努めている。
2	タイトル	厳しい環境の中職員と子どもの信頼関係が育まれている
	内容	育成室1室、子ども40名定員、お昼寝も机にうつ伏せで行うという厳しい環境の中、多くの要支援児も受け入れて運営をしている。ただし、職員間の風通しは良く子どもと職員間のコミュニケーションにも努めており、子どもの意見や要望も柔軟に受け入れていることも確認することができた。クールダウンが必要な要支援児が複数名いるなかで、子ども同士でその子を受け入れて一緒に遊べる環境作りができていることは評価できるとともに、職員と子どもの間に信頼関係が育まれていることを読み取ることができる。
3	タイトル	職員の経験が豊富で報連相が円滑に行われ、専門性を高めながら、チームワークを活かした学童クラブ支援に取り組んでいる
	内容	第1種会計年度職員と第2種会計年度職員とで採用の種別は異なるものの、職員の経験が豊富であり、円滑な情報共有や報連相が徹底されている。職員同士の連携が取れており、チームワークの良さが日々の支援に活かされている。また、自己研鑽にも積極的に取り組もうとしており、支援員としての専門性を高めながら学童クラブの支援に努めている。職員自己評価では「職員の人間関係が良好である」「会議での発言を尊重してくれる」など良い点として挙げている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	保護者にむけて指導計画の説明を行うことを課題としている
	内容	年度当初に職員間で目標や指導計画を話し合い、前年度の取り組みも踏まえながら策定を行っている。また、支援方法についても定期的なミーティングを通じて職員間で意見を出し合い、子ども一人ひとりに寄り添った支援を提供できるよう努めている。一方で、育成支援計画については、保護者への説明が十分に行われておらず、今後の課題として改善を検討している。保護者と学童クラブが連携を深めることは重要であり、今後は育成支援計画の内容を適切に保護者に伝え、共に子どもたちの成長を支えられる体制づくりを進めていくことが期待される。
2	タイトル	行事への取り組みへの工夫を期待したい
	内容	年間を通して歳時記にちなんだ行事や子どもが楽しめる行事などいろいろな行事を行っているが、入会している子どもの参加だけで行われていることが憂慮される。環境的に難しいことは理解できるが、小学校との連携で空き教室や体育館などを利用するなどの工夫により、保護者や在校生、地域の方などとの交流を楽しめる機会となる行事の開催への取り組みも期待したい。
3	タイトル	事業継続計画(BCP)の早期策定と周知、職員の訓練実施をすることで、緊急時の対応力向上を期待したい
	内容	安全管理に関する取り組みが進められているが、事業継続計画(BCP)の策定が途上であり、早期の策定と職員・関係者への周知が必要である。災害や緊急時における定常状態への復帰対応を円滑に進めるためには計画の策定だけでなく、職員が具体的な行動を理解し、実践できるような訓練が重要である。職員の招集、支援の役割分担、復帰の優先順位などを明確にし、実際の状況を想定した訓練を実施することで、緊急時の対応力向上につながる。今後は、BCPの策定と定期的な訓練を通じて、学童クラブが安心して過ごせる環境にしていくことを期待したい。